

## 地方在住高齢者の災害・感染症対策前後における健康関連 QOL の変化

## — 地方都市全域における高齢者健康調査の分析 —

○ 広島文化学園大学 河野 喬 (6788)

キーワード3つ：高齢者，健康関連 QOL，災害

## 1. 研究目的

土砂災害などの自然災害に加え，2019年から流行した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）などの影響を受け，大幅な生活様式の変更を余儀なくされた人々が多数に上っている。高齢者保健福祉分野においても，それまでの健康支援が届かなくなり，活動の制限や社会的孤立などのリスクが高まったことが数多く報告されている。そのような現状に対して，生活不活発及び感染リスクの軽減や関係づくりを企図した様々な創意工夫が，通信技術等を用いて行われている。

本研究の対象地域（A 県 B 市）は，2018年に大雨土砂災害に見舞われた地域である。本研究に先立ち2017年に行われた調査では，運動習慣と健康関連 QOL（以下，HRQOL）の関連と，単独世帯とくに女性のスコアの低さが明らかとなった（Kawano et al, 2020）。そこで，5年後にあたる2022年にコーホート調査として高齢者健康調査を改めて行い，健康状態の変化と，それに影響を及ぼした要因について検討を行った。

## 2. 研究の視点および方法

本研究では，運動，地域活動，HRQOLに関する調査結果の，災害及び COVID-19 前後の比較を通して，健康の促進要因と阻害要因の抽出を試みた。調査項目は，性別，年齢，世帯構造といった基本属性に加え，就労，運動習慣，地域活動，スマートフォン所持，及び HRQOL に関する調査を行った。HRQOL の調査としては，広く用いられている MOS 36-Item Short-Form Health Survey 日本語版第2版（以下，SF-36v2）の身体的健康，精神的健康，及び社会的健康のサマリースコアを用いた。併せて，社会的つながりの調査として，Lubben Social Network Scale-6 日本語版（LNSN-6）を用いた。SF-36v2 の使用にあたっては，ライセンスを保有する iHope International 株式会社に使用登録申請を行い，承認を得た。

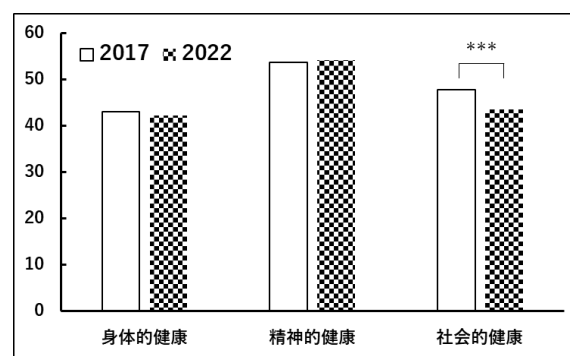
統計的処理として，2022年調査の HRQOL スコアについては，先行研究に基づきスコアリングを行い，平均値及び標準偏差を求めた。次に，2017年調査（513名，平均年齢73.4歳 ± 5.9年）と2022年調査の間に新たに調査に協力した者が含まれていたため，対応のない *t* 検定を用いて比較した。最後に，2022年調査における HRQOL スコアに影響を及ぼす要因の検討として，性別，年齢，世帯構造，就労，運動習慣，地域活動参加，スマートフォン所持を独立変数とする重回帰分析（強制投入法）を行った。分析には統計解析プログラム HAD ver.17.206（清水 2016）を用い，有意水準は5%未満とした。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会研究倫理規程に則って計画した。A 県 B 市及び同市老人クラブ連合会に調査協力を依頼し、事前に目的、方法、及び協力は任意である旨の説明を口頭・書面で示し、承諾書を回収した対象者に対してのみ配票調査を実施した。なお、報告者の所属機関の研究倫理審査会の事前承認を得て調査を実施した（承認番号：HS-2022001）。なお本発表に関連して、開示すべき COI はない。

### 4. 研究結果

2017 年調査と 2022 年調査の回答者（1,028 名，平均年齢 78.7 歳 ± 6.1 年）の対応のない  $t$  検定の結果を図に示す。社会的健康のみ有意に低値を示した。重回帰分析の結果，身体的健康には運動習慣及びスマートフォン所持が，社会的健康には就労及びスマートフォン所持が，社会的つながりには性別及び地域活動が，それぞれ有意な正の要因として抽出された。但し，精神的健康では，世帯人員数の増加が負の要因として抽出された（表参照）。



変数名	身体的健康	精神的健康	社会的健康	社会的つながり	VIF
性別 (1=男性, 2=女性)	-.028	.003	-.014	.069 *	1.087
世帯構造 (0=単独, 1=その他)	.012	-.107 **	.027	.042	1.083
就労 (0=無, 1=有)	.064	.017	.075 *	.034	1.024
運動習慣 (0=無, 1=有)	.125 ***	.025	-.024	.066	1.063
地域活動 (0=無, 1=有)	.056	.063	-.007	.175 ***	1.052
スマートフォン所持 (0=無, 1=有)	.098 **	-.049	.169 ***	.030	1.024
$R^2$	.038 **	.020 **	.039 **	.047 **	

\*\*\*  $p < .001$ , \*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ ,  $\beta$ : 標準偏回帰係数, VIF: 分散拡大係数,  $R^2$ : 決定係数

### 5. 考察

地域活動と社会的つながりの関連は先行研究を支持するものであるが，スマートフォン所持が，身体的及び社会的健康の増進要因であったことは，物理的な交流が難しい状況下での支援に有用な新奇性のある発見といえる。一方，世帯人員数が多いほど精神的健康が低値であったことは，災害と感染症が世帯内での人間関係に及ぼした悪影響を窺わせる。人と人とのつながりが生み出す正と負の両面性を示唆するものと考えられる。

### 謝辞

本研究は，科学研究費助成事業（研究課題/領域番号：21K02065）の成果の一部です。調査にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

### 資料

(1) Kawano et al (2020) *Japanese Journal of Social Welfare*, 60(5), 1-12. (2) 清水裕士 (2016) *メディア・情報・コミュニケーション研究*, 1.